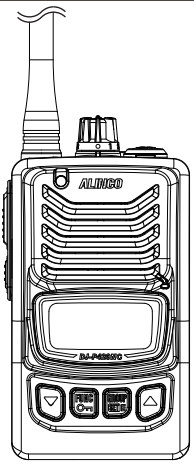


特定小電力ハンディトランシーバー
総務省技術基準適合品
ノイズキャンセラー機能搭載

DJ-P420NC 簡易取扱説明書



左図の二次元コードを読み取る
ことで詳細取扱説明書をダウン
ロードすることができます。



アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機は免許、資格が不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら誰でも用途を
問わず、各種通信にお使いいただけます。本機の性能を十分に発揮させるために、
この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサー
ビスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管してくださ
い。また補足シートや正誤表などが入っている場合は取扱説明書とあわせて保管
してください。

アルインコ株式会社 電子事業部

大阪本社 / 電子サービスセンター：
〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 4-4-9 淀屋橋ダイビル 13F / TEL 06-7636-2222

無線・電源機器のアフターサービスに関する情報はアルインコ
電子事業部HP <https://alinco-denshi.com/>
「サポート情報」をご覧ください。



Copyright Alinco, Inc.

キャリアセンス(受信中は送信できません)……………

一定の強さ以上の信号を受信しているときは送信できません。受信中に送信し
ようとするとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。混信や
妨害を与えないための機能です。

注意 セットモードの「操作音量」をオフに設定している場合、アラーム音は鳴
りません。

付属品

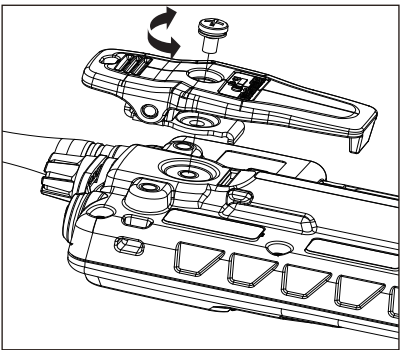
付属品をご確認ください。

☐ ベルトクリップ：EBC-70 (ネジ付/装着済) ☐ 取扱説明書(本書)
☐ 安全上のご注意 ☐ 保証書

注意 ●保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証
書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サ
ービスは無効となりますのでご注意ください。
●保証は、本機と付属品だけに適用されます。
●弊社純正、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた
不具合は保証期間の有無を問わず保証対象外です。他メーカー製のアクセ
サリーが使えるかどうかは検証していません。

ベルトクリップの取付け/取外し……………

ベルトクリップは取り付けた状態で
梱包されています。ベルトクリップ
を外すときはドライバー(+ / No.2)
でネジを反時計方向に回して外して
ください。
定期的に、ネジにゆるみがないか点
検してください。取付け後は本機を
体の横や腰などに装着してください。
またマイクなどの有線式オプション
のケーブルは引っかからないように
余分な長さは束ねてお使いください。



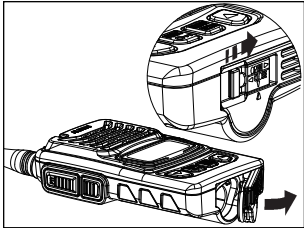
注意 ●左右のネジ穴は別売オプションを取り付けるためのものです。
付属品以外のベルトクリップはご使用になれません。
●本機が破損しますので絶対に規格以外のネジは使わないでくださ
い。ネジの規格はクリップに刻印があります。(M3×5 mm)

電池の入れ方

単三形アルカリ乾電池またはオプションのニッケル水素充電電池(EBP-179)を
1本使用します。

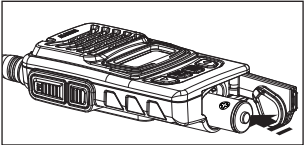
①カバーを開ける

ロックレバーを「OPEN」側へスライド
させながら手前に引くようにカバーを開け
ます。
※防水のため固くなっています。
爪を傷めないようご注意ください。



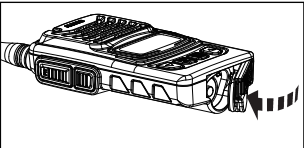
②電池を入れる

指定の電池を マイナス[-] 側から入れます。
カバーにはプラス[+]側の突起が当たります。
※マンガン乾電池は使用時間が極端に短くな
るので動作保証の対象外です。



③カバーを閉める

図のようにカバーを本体上部方向へ押さ
えて、カチッとロックがかかるまで閉めてく
ださい。



注意 ●電池の[+ / -]の向きを間違えると動作しません。
●充電方法が異なるため、市販の単三形充電電池はご使用になれません。
●使用しないときは電池を取り外してください。放電した電池は液漏れの
原因となり、修理ができなくなります。

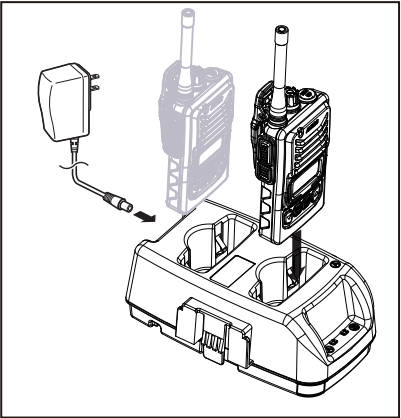
別売 充電電池と充電器

●ニッケル水素充電電池 : EBP-179(1.2V 1900mAh)
●ツイン充電器セット : EDC-179A(ACアダプター付属)
●連結充電スタンド : EDC-179R(専用ACアダプターEDC-162 別売)
●シングル充電器セット : EDC-181A(ACアダプター付属)
●5口充電スタンド : EDC-353R(専用ACアダプターEDC-162 別売)

充電電池は出荷時には十分に充電されていません。お買い上げ後に満充電してから
ご使用ください。
充電器(EDC-179A/179R/181A)を使用して、
空のニッケル水素充電電池(EBP-179)は約6時間で満充電になります。

■ツイン充電器セット(EDC-179A)の使用方法

- ①本機にニッケル水素充電電池
(以下、充電電池)を装着します。
- ②ACアダプターのプラグを充電スタ
ンド背面のジャックに接続します。
- ③ACアダプターを家庭用コンセント
AC100Vに接続します。
- ④必ず本機の電源を切ってから、充電
スタンドのポケットに挿入します。
充電が始まると赤色ランプが点灯し
ます。2台同時に充電できます。
- ⑤充電が完了すると、緑色ランプが
点灯します。
※6時間経過しても緑色にならないと
きは充電不良です。後述の注意をお
読みください。



■連結充電スタンド(EDC-179R)の使用方法

連結充電スタンド(EDC-179R)を使用して連結充電するときは、必ず連結用ACア
ダプター(EDC-162)が必要です。5台まで任意の台数を連結して、10台までの本
機を一度に充電できます。

- ①充電スタンド横の突起をはめ合わせて連結します。ロックレバーがカチンと固定
されていることを確認してください。
- ②充電スタンド底面のコネクターは、サイドの突起を指ではさむようにして引き抜
き、隣のスタンドに接続します。

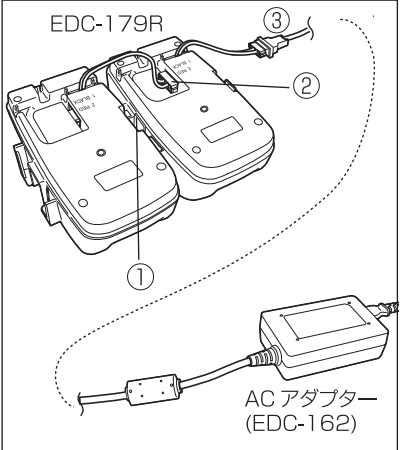
- ③これを繰り返して、最後のコネクター
をACアダプター(EDC-162)の
コネクターに接続します。

- ④ACアダプターを家庭用コンセント
AC100Vに接続します。

- ⑤本機の電源が切れていることを確認
してから充電スタンドのポケットに
挿入します。充電が始まると赤色ラ
ンプが点灯します。
最多で10台同時に充電できます。

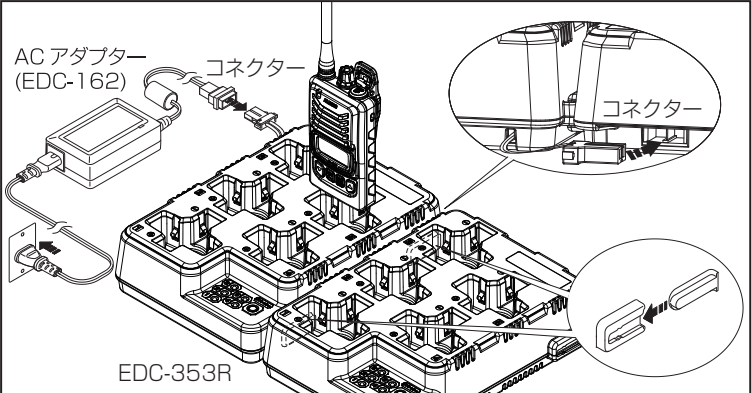
- ⑥充電が完了すると、緑色ランプが
点灯します。

※充電スタンドの連結を外すときは、
断線を防ぐため先に底面にあるコネ
クターを抜いてください。



■5口充電スタンド(EDC-353R)の使用方法

EDC-353Rを使用すると5台までの任意の台数の本機をまとめて充電が可能です。
また、2台を連結させて、最多で10台までを同時に充電することもできます。
接続方法は下図のようにスタンドの突起をカチンとはめ合わせ、電源ケーブルは上
記と同様にサイドの突起を指ではさんで一方は隣のスタンドに、もう一方はACア
ダプターに接続してからAC100Vのコンセントに繋ぎます。
充電のランプの表示、充電時間はEDC-179Rと同じです。



重要 充電電池(EBP-179)を使用するときは本書裏面のセットモード
「電池選択(bAt)」をnliに設定してください。

初期値ALのままでは、まだ使えるのに減電池表示が出ます。
また、アルカリ乾電池を使うときはALに戻さないと、電池が切れる直
前まで出ないなど、表示が不正確になります。

注意 ●充電端子の構造が違うので市販の充電電池は充電できません。
必ずEBP-179をお使いください。
●6時間以上経過してもランプが緑色にならないときは：

- 本機の電源が切れているか確認
- 充電電池を取り出して液漏れなど異常が無いか確認
- 充電電池の両極、本機横と充電スタンドの金属端子を乾いた清潔な
綿棒で軽く拭って清掃
- 正常に充電できた個体をそのポケットに入れて動作確認

いずれも動作しないときはまず充電電池の劣化の可能性があります。
EBP-179は3年を目処、長くて5年以内にお買換えください。

充電電池を変えても異常があるときは点検をご用命ください。
●同じ個体でも、スタンドのポケットを挿し変えると点灯色が異なる
場合があります。スタンド内部の部品の個体差で、異常ではありま
せん。緑色が赤色に変わっても、しばらくすれば緑色に戻ります。

●電池類の持ち運びや保管などに関する大事な注意を別紙「安全上の
注意」に記載しています。誤用はやけど、けがなど事故の原因にな
ります。必ずお読みください。

メモ ニッケル水素充電電池のリフレッシュ

EBP-179は日本メーカー製の高性能充電電池ですが、数カ月使用
せずに保管していると、一時的に使用時間が短く感じられること
があります。その時は満充電した本機を減電池表示が出るまで電
源を入れたまま放置し、表示が出たらもう一度満充電して放置し
ます。このように2回連続で充放電を繰り返して使用時間が延び
るか確認ください。

それでも戻らないときは新しい充電電池に交換してください。

EDC-181、EDC353ではリフレッシュ機能があります。
充電電池をセットし、リフレッシュボタンを約2秒間押すとランプが
緑色に点滅し、緑色点灯になれば完了です。

各部の名前とはたらき

■前面部

アンテナ
アンテナは外れないように
なっています。
アンテナをもって運ぶなど
ストレスを与えるとカバー
が外れるなどの故障の原因
になります。

電源/音量つまみ
時計周りに回すと電源が入り、
回し続けると音量が上がります。
反対で音量が下がり、電源
が切れます。イヤホン使用
時は音量の上げすぎにご注
意ください。

イヤホン/マイク端子
別売のアクセサリのプラグ
を挿入したら時計周りに止ま
るまでねじ込んでください。
挿すだけでは動作しません。

ランプ
緑色点灯 : 受信
赤色点灯 : 送信
消灯 : 待受け時

スピーカー
受信音が鳴ります。

マイク
送信するときはここに向かっ
て話します。指やステッカー
でふさがないようにください。
声を拾わなくなります。

PTT(送信)キー
送信するときに押したまま
話します。

サブPTTキー
初期状態では長押しすると、
ノイズキャンセラー機能が
OFFになります。
詳細取説の操作で別の機
能に割り当てられます。

△(アップ)キー
チャンネルや他を降順に変更
できます。

GROUPキー
グループトーク番号やセット
モード操作で使用します。

▽(ダウン)キー
チャンネルや他を降順に
変更できます。

FUNCキー
キーロックやセットモード
に入る際に使用します。

■ディスプレイ
秘話機能表示
VOX機能表示
コンパnder機能表示
ベル機能表示
減電池表示
チャンネル
グループ番号表示
キーロック表示
Sメーター表示
中継チャンネル表示

その他の表示
中継
中継チャンネル表示

基本操作

本書は本機が実用できる基本の操作だけを分かりやすく説明したものです。設定や管理を担当される無線機管理者は表面の二次元コードから詳細説明書をお読みください。

■ キー操作

「キーを押す」とはしっかり押した後、すぐに離すことを指します。

「キーを長押し」とは約2秒間押し続けることを指します。

■ 電源の入り切り / 音量を調整する

電源/音量つまみを時計方向に回すと電源が入り、待受表示になります。さらに回すと音量が上がります。電源を切るときは、つまみを半時計方向に回し切ります。カチンとスイッチが切れることを確かめてください。電源を入れた時に「EAr-nG」表示が出たらイヤホンの異常です。しっかりねじ込んでも消えないときは異常がないイヤホンに差し換えて試し、直ればイヤホンを良品に交換してください。直らないときは本体の故障です。点検をご用命ください。



● 交互通話

電波の届くところにいるれば人数に制限なく通話できます。一人が話す音声を残り全員が受信します。複数の人が同時に送信したり、話中に割り込んだりすることはできません。

■ チャンネルを合わせる

[▽]または[△]キーを押して交互通話用チャンネル(CH)のL01～09、b01～11を選択します。通話したいトランシーバー全てを同じチャンネルに合わせます。キーを押し続けると連続してチャンネルが切り替わります。どのCHも自由に使うことができ、通話距離は変わりません。他社製の01CHは本機のb01、12CHはL01で試すか、後述のACSH操作でチャンネルを合わせてください。グループ番号は共通です。



■ 受信する

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。ランプが緑色に点灯、ディスプレイのSメーターが信号の強さに応じて表示されます。グループトーク使用中は、番号が一致した信号でないとランプが緑でも音声は聞こえません。

メモ 本機は受信終了時の「ザッ」というノイズを低減するテールノイズキャンセラー機能を採用しています。弊社の対応機種間で自動的に有効になります。

■ 送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。[PTT]キーを押している間、ランプが赤色に点灯して送信します。[PTT]キーを押したまま、マイクまで約5cmほど離れて通常の声量で話します。別のグループが同じCHを使っているなどで一定の強さ以上の信号を受信しているときは警告音「プププ」が鳴り送信できません。[PTT]キーを離すと受信待受けに戻ります。セットモード「PTTホールド(HLd)」をonにすると、一度[PTT]キーを押すと送信状態を保持、もう一度押して解除するまで手が使えるハンズフリー運用ができます。

● 中継通話

直接では電波が届かない相手と別売の中継器を介して交互通話ができます。電波の届くところにいるれば人数に制限なく通話できます。本機では中継器は1台のみで、連結中継はできません。弊社の中継対応機なら本機以外の子機も混用できます。既に中継システムを運用中であれば、本機をACSHで簡単にチャンネルとグループ番号が設定できます。

■ チャンネルを合わせる

[▽]または[△]キーを押して中継器と同じチャンネル(L10～18、b12～29)にした後、次項で説明するグループ番号を選択します。ディスプレイに「中継」が点灯します。中継器と子機は同じメーカーでないと相性問題で通話不良が起きることがあります。他社製中継器を使用しての動作保証はできません。



■ 受信する

中継器にアクセスできる距離に居れば交互通話と同じです。ランプが緑に点灯、ディスプレイのSメーターが表示され、音声聞こえます。中継通話では原則、グループトークを設定して使用します。

■ 送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。ランプが赤色に点灯して送信が始まります。中継器にアクセスできると「ビビ!」とアクセス音が鳴るので、[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。

メモ 中継器も、子機と同じCH・グループ番号に設定します。周波数帯A/B切替えは初期値のまま、変更しないでください。アクセス音などは設定によっては鳴らないことがあります。

注意 ●中継用チャンネルでは、子機同士の直接通話はできません。
●それぞれの機器が至近距離にあると誤動作することがあります。
子機 - 中継器間、子機 - 子機間は10m以上離してください。

● コールトーン機能

送信中に[▽]または[△]キーを押すと、呼び出し音を鳴らして注意喚起ができます。[▽]と[△]キーでは音色が異なります。

● グループトーク機能

グループ（トーク）番号が一致した信号だけ受信音が出ます。番号が合わない別ユーザーの混信を聞かなくて済む便利な機能で、ノイズの一部を低減することもあります。

■ [GROUP]キーを押す

チャンネル表示の右側にグループ番号が点灯します。

■ グループ番号を合わせる

[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押して自分のグループのトランシーバーをすべて同じ番号に合わせます。01～50からなるべく他人が選ばないような番号にすると効果的です。01は多用されるので避けてください。長くお使いの個体と混用するときは02～36の範囲で選ぶと経年劣化や相性による通信不良が起きにくくなります。



● キーロック機能

誤操作を防止できます。「簡易」は混信などで設定をひんぱんに変えるようなとき、「通常」は誤操作で解除されにくいので複数の使用者が同じ個体を運用するようなときにおすすめします。電源オンオフと音量は変更できます。

■ 簡易キーロック(LoC-1)

[FUNC]キーを約2秒押します。「LoC-1」が点滅した後[🔒]が点灯します。セットモード操作を誤るとこの状態になります。解除するには同じ操作を行います。

■ 通常キーロック(LoC-2)

[FUNC]キーと[GROUP]キーを同時に約2秒押します。「LoC-2」が点滅した後[🔒]が点灯します。解除するには同じ操作を行います。

● 減電池表示 *電池が減ったときだけ表示されます。

電池の残量が少なくなると「🔋」が点灯し、電池の交換時期が近づいていることをお知らせします。

さらに残量が少なくなると「🔋」が点滅します。点滅したら新しい電池と交換するか充電電池を充電してください。

メモ ●「電源が入らない」「ディスプレイ表示が消える」「ハウリング」「オンオフを繰り返す」などの症状が出た場合も電池の消耗が考えられるため、新しい電池と交換するか充電電池を充電してください。
●しばらくご使用にならない場合は、必ず電池を取り外してください。
●表示が出る前に電池がなくなった、充電したばかりなのに表示が出ているなど不正確な時はセットモード「電池選択(bAt)」の設定が正しいかご確認ください。

● セットモード

各種機能を用途や好みに合わせてカスタマイズすることができます。セットモードの詳しい説明は詳細取扱説明書をご覧ください。

■ セットモード操作

- [FUNC]キーを押しながら[GROUP/SET]キー([SET]キー)を押します。セットモードに入り、下表の「項目」のような表示が出ます。
- [SET]キーを押すごとに項目が切り替わります。[FUNC]キーを押すと前項目に戻ります。
- [▽]または[△]キーを押して設定値を変更します。
- [PTT]キーを押すと、完了して待受け状態に戻ります。

注意 [FUNC]キーを押し始めたら、すぐに[SET]キーを短く押してください。[FUNC]キーだけ押しすぎるとキーロックします。[FUNC]キーだけを長押しして、解除してからやり直してください。

No.	項目	機能	選択項目	初期値
1	bAt-AL	電池選択(アルカリ/ニッケル水素)	AL/ni	AL
2	CmP-oF	コンパンダー(雑音低減)	oF/on	oF
3	vo-oF	VOX(音声検出送信)	oF/Lo/Hi	oF
4	SCr-oF	秘話	oF/on	oF
5	bP-Lo	ビープ音量	oF/Lo/Hi	Lo
6	StP-oF	スタートビー(送信開始音)	oF/on	oF
7	EdP-oF	エンドビー(送信終了音)	oF/on/PP	oF
8	bEL-oF	ベル(呼び出しお知らせ)	oF/on	oF
9	LmP-5	ランプ(バックライト)	oF/5/on	5(秒)
10	LEd-on	ランプ(LED)	oF/on	on
11	HLd-oF	PTTホールド(送信保持)	oF/on	oF
12	Ptt-on	PTTオン/オフ(送信禁止)	oF/on	on
13	At-on2	中継自動接続手順	oF/on1/on2	on2
14	EAr-on	イヤホン断線検知	oF/on	on
15	CLb-oF	コールバック	oF/on	oF
16	PwL-Hi	送信出力	Lo/Hi	Hi
17	EmG-oF	緊急通報	oF/on	oF
18	rmT-oF	接音モード	oF/Hd/tH/vo	oF
19	ivol-L	本体音量レベル変更	L/H	L
20	niS-on	ノイズキャンセラー	oF/on	on

● リセット

通話や操作ができなくなったら初期化して、後述のACSHでCHとグループ番号を合わなおすと簡単に回復できます。ACSHを解除して手で設定を変えるときもリセットすればキーロックは解除できます。電源を切り、[FUNC]キーを押したまま電源を入れ、全表示が出たら指を離します。[L01]で起動したら完了です。

その他の機能

詳しい操作方法や本書には記載していない拡張機能については詳細取扱説明書をご覧ください。

■ デュアルオペレーションモード

メインとサブの2つのチャンネルを登録して、1秒ごとにそれを自動で交互受信、[PTT]キーの押し方で任意のCHを選んで送信できます。管理者が2系統の通信をモニター、時々指示を出すようなシーンに最適です。

■ リモコンモード

本機をリモコンとして弊社製中継器のチャンネルなどを遠隔操作する機能です。

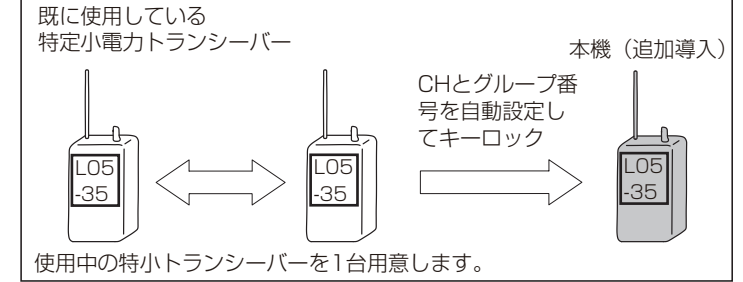
■ ノイズキャンセラー機能

マイクノイズキャンセラー(ノイズキャンセラー)は送信音に入る音声以外のノイズをカットする機能です。受信音に関しては相手側でノイズキャンセラー機能をONにする必要があります。初期設定ではONになっています。[サブPTT]キーを長押しすると、OFFにすることができます。もう一度押すと、ONになります。

注意 ●この機能を使用すると受信時の音質が変わってしまいます。
●受信の冒頭はノイズがカットされないときがあります。

■ ACSH(アクシュ)モード

既中使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号を自動で検出して、本機に同じものを設定する機能です。設定後はキーロックがかかります。

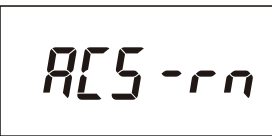


本機の電源を切り、[GROUP(SET/E)]キーを押したまま電源を入れます。ディスプレイにチャンネルが表示されても押したまま、5秒ほど経過すると「ビビビビッ」音が鳴り、「ACSH」が点滅表示されます。複数台この操作をすれば、1度にまとめてACSHできます。



使用中(設定元)のトランシーバーを送信状態にします。

本機が電波の検出を開始します。数秒から最長2分程度で電波を検出すると、「ビビッ」と音が鳴り、ディスプレイに“ ACS-m ”と表示されます。



自動設定が完了すると「ブルルルル」と音が鳴り、ディスプレイに“ ooo ooo ”と表示され、自動的にキーロックを掛けて再起動します。



設定元のトランシーバーの送信を止めて、それぞれで通話できることを確認します。

中継器1台のシステムであれば、ACSHで設定できます。同じ要領で子機をACSHモードにしたら、設定元のトランシーバーで中継器にアクセスして、中継器からの電波を検知させます。このためACSHする本機は中継器の近くに置き、設定元のトランシーバーは離れた場所からアクセスします。

注意 ●自動設定中は電源を切らないでください。電源が落ちたら始めからやり直してください。
●本機が電波を検出しているときは、設定元や他の個体から音声が入らないようご注意ください。電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
●長く使っている個体を設定元にしてACSHすると本機が他の番号を設定したり、正しく検出できなかったりすることがあります。本機はグループ番号の読み取り精度が非常に高いため、経年劣化などでずれた信号は相性問題から正しくACSHできないことがあります。
●自動設定後はキーロックします。手動でチャンネルやグループ番号を変更するときは[FUNC]キーを長押しで解除します。

故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
電源が入らない	電池の入れ方が間違っている 電池が消耗している	電池を正しく取り付ける 新しい電池に交換するか充電する
音が出ない	音量が低すぎる	適切な音量に調整する
受信できない	相手とチャンネルが違う 相手と距離が離れている	同じチャンネルにする 通信距離を目安に送信する
送信できない	電波を受信している 3分通信制限を超過している	電波がなくなってから送信する [PTT]キーを離して2秒以上送信を待つ
キー操作できない	キーロックされている	キーロックを解除する
充電できない	端子が汚れている 充電電池が劣化している	端子の汚れをふき取る 新しい充電電池に交換する
電源を入れたと、 「EAr-nG」表示が出る 又はイヤホンから音が出ない	イヤホンがしっかり入っていない イヤホンが断線している	プラグを奥まで挿した後、時計方向に 止まるまでねじ込む イヤホンを新品に交換する

オプション一覧

EBP-179	ニッケル水素バッテリー	EME-63A	ヘルメット用ヘッドセット
EDC-179A	ツイン充電器 (ACアダプター付属)	EME-64A	ヘッドセット
EDC-179R	連結ツイン充電スタンド	EME-70A	イヤホンマイク カナル型
EDC-181A	シングル充電器セット	EME-654MA	イヤホンマイク 耳かけ型
EDC-162	ACアダプター (連結充電用)	EME-764MA	イヤホンマイク 耳かけ型
EDC-287	ACアダプター(シングル保守用)	EME-764PA	イヤホンマイク オープンエア型
EDC-353R	5口充電スタンド	EME-914CA	防水イヤホン カナル型
EME-58	ストレートコードイヤホン 耳かけ型	EME-914MA	防水イヤホン 耳かけ型
EME-60	ツイストコードイヤホン カナル型	EMS-62	スピーカーマイク
EME-32A	イヤホンマイク カナル型	EMS-71	防水スピーカーマイク
EME-48A	イヤホンマイク 耳かけ型	ESC-66	ソフトケース
EME-62A	咽喉イヤホンマイク カナル型	EDS-14	プラグ変換ケーブル
		EDS-44	PTT スイッチカバー

* ベルトクリップはスベア部品をご用意しています。販売店にご相談ください。
* スピーカーマイクはPTTホールド、VOX機能、コールバック機能をご使用になれません。
* マイク類の接続方法はアクセサリ側に、EDS-44の使用方法是詳細説明書に記載されています。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後も5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

定格

送受信周波数	レジャーチャンネル (Lチャンネル)	421.8125～421.9125MHz 422.2000～422.3000MHz 440.2625～440.3625MHz
	ビジネスチャンネル (bチャンネル)	421.5750～421.7875MHz 422.0500～422.1750MHz 440.0250～440.2375MHz
周波数制御	チャンネル	421.8000MHz、422.1875MHz 440.2500MHz
電波形式		F3E (FM)、F1D (FSK)
送信出力		10mW/1mW
受信感度		－14dBu (12dB SINAD)
音声出力		100mW以上 (内部スピーカー、外部出力：8Ω)
通信方式		単信、半複信
定格電圧		DC1.5V(単三形アルカリ乾電池)、DC1.2V(EBP-179使用時)
消費電流		送信時：約 200mA、待受時：約 200mA バッテリーセーブ時：約 22mA
動作温度範囲		－10℃～+50℃ (充電：0℃～+40℃)
寸法		高さ92mm×幅54mm(突起物除く) 電池収納部の突起除く厚さ18.2mm(厚さ最大29.6mm)
アンテナ長		L：約164.0mm、M：76.2mm
質量		L：約106g (ベルトクリップ・電池除く) M：約98g (ベルトクリップ・電池除く)
使用時間の目安		単三形アルカリ乾電池使用時 ：約25時間 ニッケル水素バッテリー使用時 ：約20時間

・仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
・本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略したりしている場合があります。本書の内容を無断転載することは禁止されています。
・乱丁、落丁はお取り替えいたします。
・技術基準上の理由から、アンテナの長さを変更することはできません。同じ長さの修理交換はサービスセンターで承ります。